

# 鳥取県の推計人口（年報）

【令和6年10月～令和7年9月】

令和7年11月20日公表

鳥取県総務部統計課

# 目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯数	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月別社会動態	9
(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村別人口動態	
1 概況	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 男女別自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村別社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出	21
＜参考＞外国人の人口動態	25

## 用語の説明

### 1 人口性比

女性人口を100としたときの男性人口の比率

### 2 年少人口

0歳～14歳の人口をいう。

### 3 生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

### 4 老年人口

65歳以上の人口をいう。

### 5 年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

### 6 老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

### 7 従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

### 8 老年化指数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

### 9 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

### 10 移動

- (1) 移動者総数………県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数………県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数………県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数………県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数………県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数………県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

### 11 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

## 1 2 移動者の年齢

令和7年10月1日現在の満年齢による。

## 1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

## 1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

## 1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

## 1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

## 1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

## 1 8 地区別区分

東部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

## 1 9 市郡別

市部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

## 利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、令和2年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 平成27年国勢調査結果に毎月の転入者等の届出数を加減した令和2年10月1日現在の推計人口及び世帯数と、令和2年国勢調査結果に差が生じているので、平成27年国勢調査結果までさかのぼり、平成27年11月以降の推計値を補正している。
- 4 人口及び世帯の移動数は、令和6年10月から令和7年9月までの年間数値である。

# 調 査 結 果 の 概 要

## I 鳥取県の推計人口

### 1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は524,535人で、前年に比べ6,550人減少し、平成8年以降30年連続の減少

令和7年10月1日現在の鳥取県の推計人口は524,535人で、前年に比べ6,550人減少した。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年は増加したものの、平成8年以降は30年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56人台で推移し、令和元年に56万人台、令和3年に55万人台、令和5年に54万人台、令和7年1月には53万人台を割った。

男女別人口をみると、男性251,099人、女性273,436人で、人口性比は91.8であった。

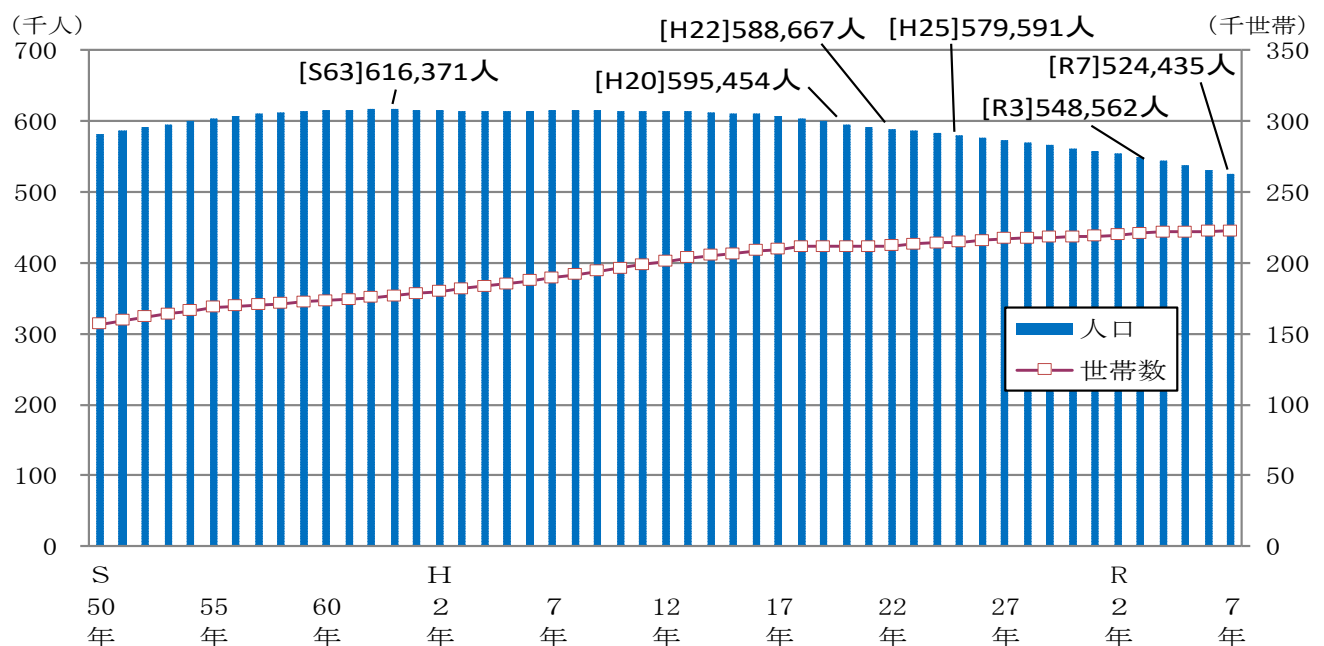
外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は11,310人(県の推計人口に占める割合は2.2%)で前年に比べ551人増加し、4年連続の増加となった。男女別にみると、男性4,989人、女性6,321人で、人口性比は78.9であった。

世帯数は、222,487世帯で、この1年間で427世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和7年では過去最多となった。1世帯当たりの人員は2.36で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)

図1 人口と世帯数の推移



注1) 各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2) 国勢調査実施年は国勢調査人口(R7年を除く)、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

年	人 口			対 前 年				人口性比	世帯数	1世帯当たりの人員
	総数	男	女	総数	男	女	率			
R3年	548,562	262,227	286,335	-4845	-2205	-2640	-0.88	91.6	220,693	2.49
	9,230	3,973	5,257	-198	-72	-126	-2.10	75.6		
R4年	543,615	260,026	283,589	-4,947	-2,201	-2,746	-0.90	91.7	221,648	2.45
	9,716	4,255	5,461	486	282	204	5.27	77.9		
R5年	537,318	257,165	280,153	-6,297	-2,861	-3,436	-1.16	91.8	221,780	2.42
	10,217	4,465	5,752	501	210	291	5.16	77.6		
R6年	531,085	254,153	276,932	-6,233	-3,012	-3,221	-1.16	91.8	222,060	2.39
	10,759	4,706	6,053	542	241	301	5.30	77.7		
R7年	524,535	251,099	273,436	-6,550	-3,054	-3,496	-1.23	91.8	222,487	2.36
	11,310	4,989	6,321	551	283	268	5.12	78.9		

注1) 下段は外国人で内数

注2) 外国人は国籍不詳を含む。

## 2 年齢3区分別人口

老年人口は、598人減少し、3年連続の減少

年齢3区分別の構成割合は、年少人口は11.8%、生産年齢人口は54.0%で、ともに過去最低、老年人口は34.2%で過去最高

年齢3区分別にみると、年少人口は60,882人で前年（令和6年10月1日現在）に比べ1,797人減少、生産年齢人口は278,971人で4,155人減少、老年人口は176,653人で598人減少した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少に転じ、平成12年に10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和60年の400,717人をピークに、以降減少が続いている。老年人口は平成7年に11万人台、平成28年からは17万人台となり増加傾向であったが令和5年から減少傾向となり、令和7年は3年連続の減少となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は11.8%で0.2ポイント、生産年齢人口は54.0%で0.1ポイントとそれぞれ低下し、ともに過去最低となった。老年人口は34.2%で0.3ポイント上昇し、過去最高となった。

年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は85.1で0.4ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は21.8で0.3ポイント低下、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は63.3で0.7ポイント上昇した。

また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は290.2で7.4ポイント上昇し、従属人口指数、老年人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）

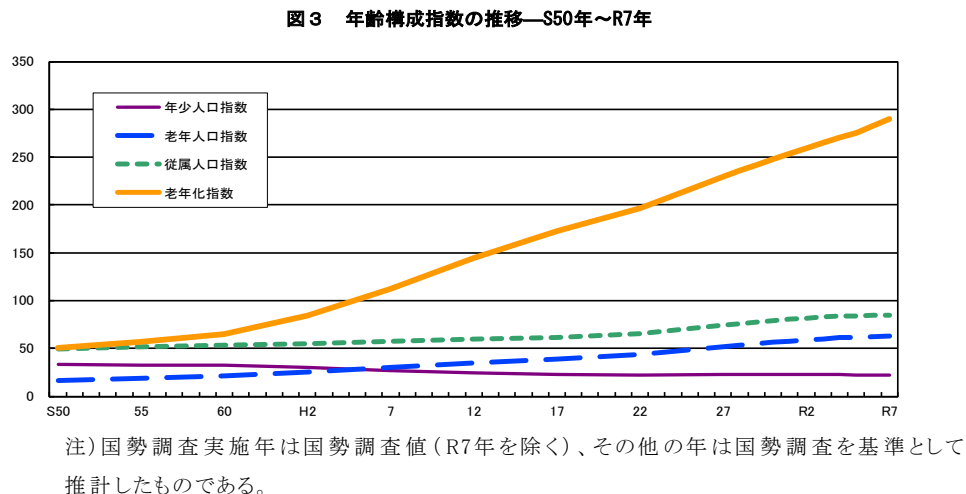
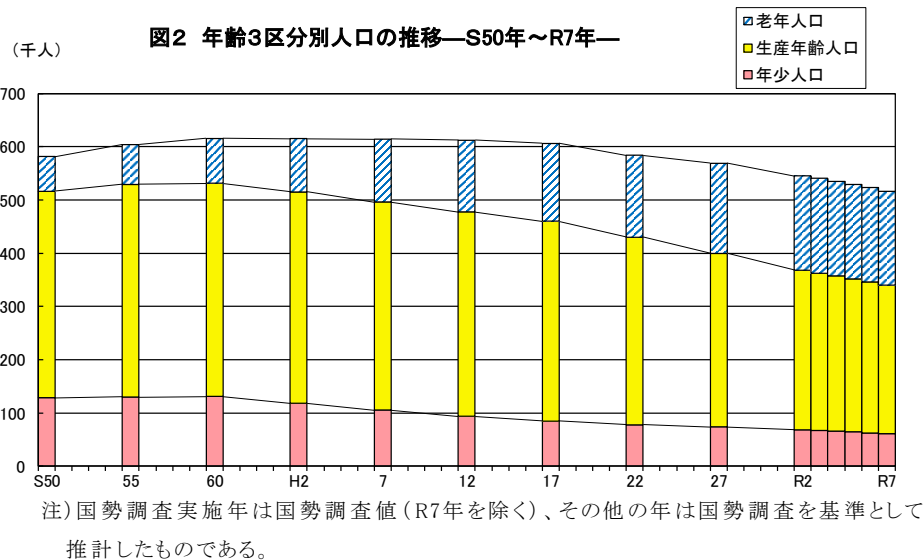


図4-1 人口ピラミッド

県全体 524, 535人

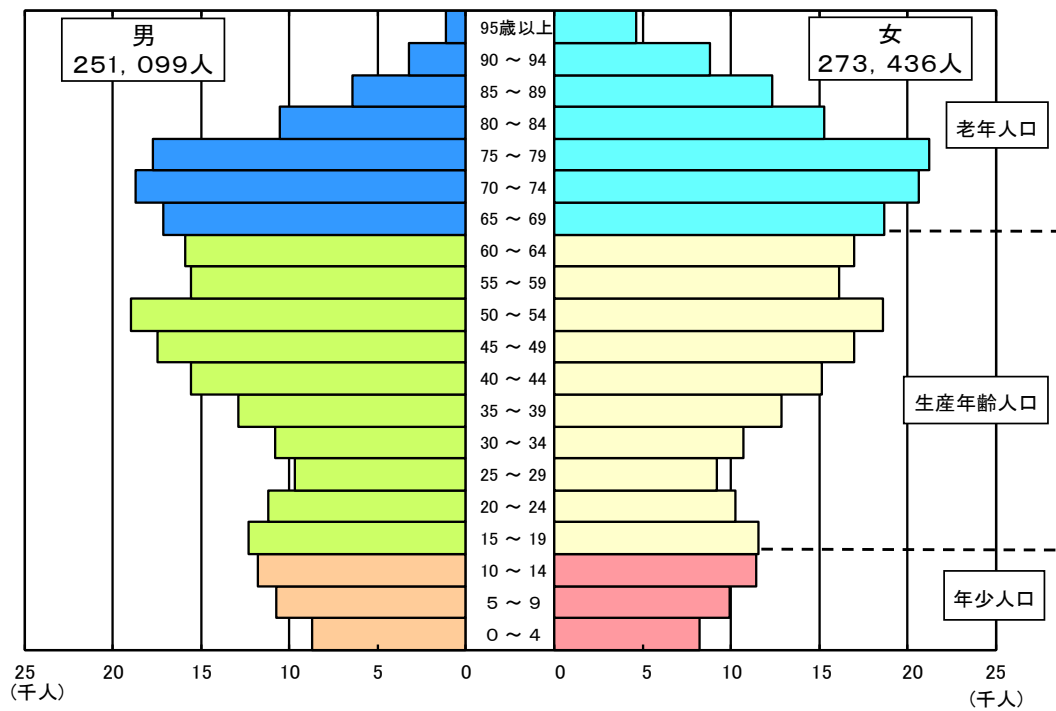


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 11, 310人

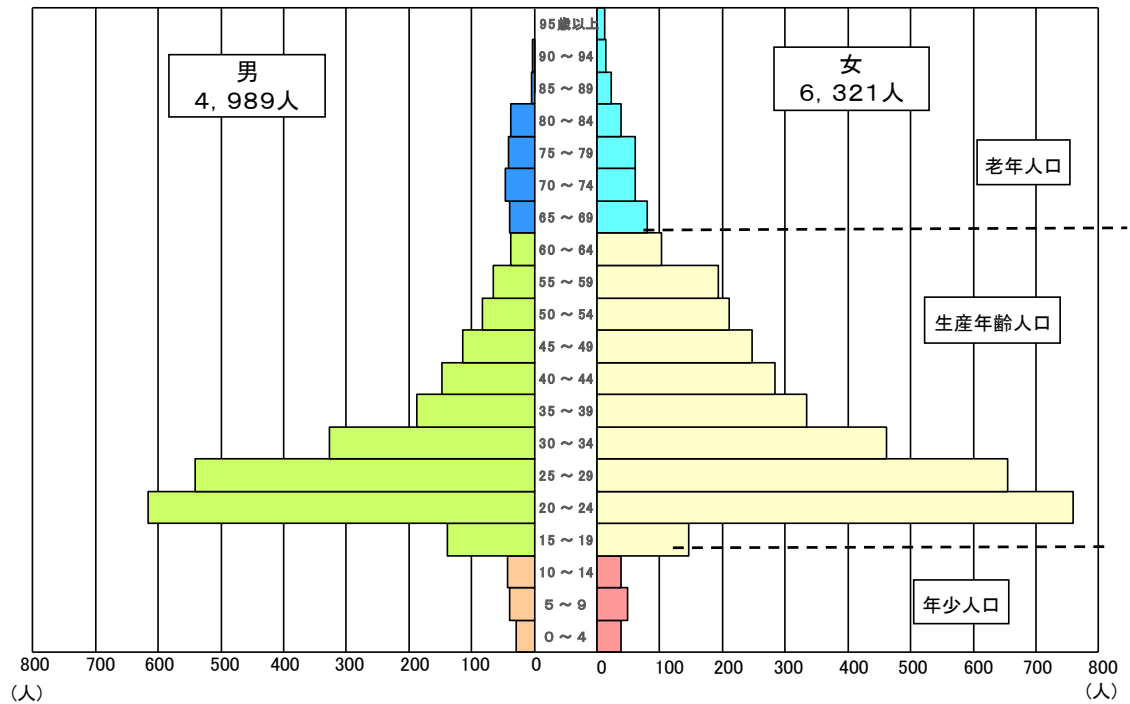




表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	524,535	251,099	273,436	91.8	11,310	4,989	6,321	78.9
0～4歳	16,972	8,724	8,248	105.8	68	29	39	74.4
5～9	20,668	10,760	9,908	108.6	87	39	48	81.3
10～14	23,242	11,783	11,459	102.8	81	43	38	113.2
15～19	23,864	12,305	11,559	106.5	285	139	146	95.2
20～24	21,488	11,203	10,285	108.9	1,376	616	760	81.1
25～29	18,923	9,679	9,244	104.7	1,196	541	655	82.6
30～34	21,515	10,796	10,719	100.7	787	326	461	70.7
35～39	25,762	12,910	12,852	100.5	522	188	334	56.3
40～44	30,741	15,588	15,153	102.9	431	147	284	51.8
45～49	34,483	17,491	16,992	102.9	362	115	247	46.6
50～54	37,603	18,956	18,647	101.7	294	83	211	39.3
55～59	31,726	15,567	16,159	96.3	259	65	194	33.5
60～64	32,866	15,873	16,993	93.4	141	38	103	36.9
65～69	35,808	17,152	18,656	91.9	120	40	80	50.0
70～74	39,355	18,708	20,647	90.6	108	47	61	77.0
75～79	39,003	17,749	21,254	83.5	102	42	60	70.0
80～84	25,844	10,561	15,283	69.1	77	38	39	97.4
85～89	18,793	6,426	12,367	52.0	27	4	23	17.4
90～94	12,025	3,229	8,796	36.7	16	3	13	23.1
95歳以上	5,825	1,166	4,659	25.0	12	0	12	0.0
不詳	8,029	4,473	3,556	125.8	4,959	2,446	2,513	97.3

注 1) 外国人は国籍不詳を含む。

注 2) 各歳別に年齢不詳は含まない。

表3 年齢3区分別人口

(単位:人、%)

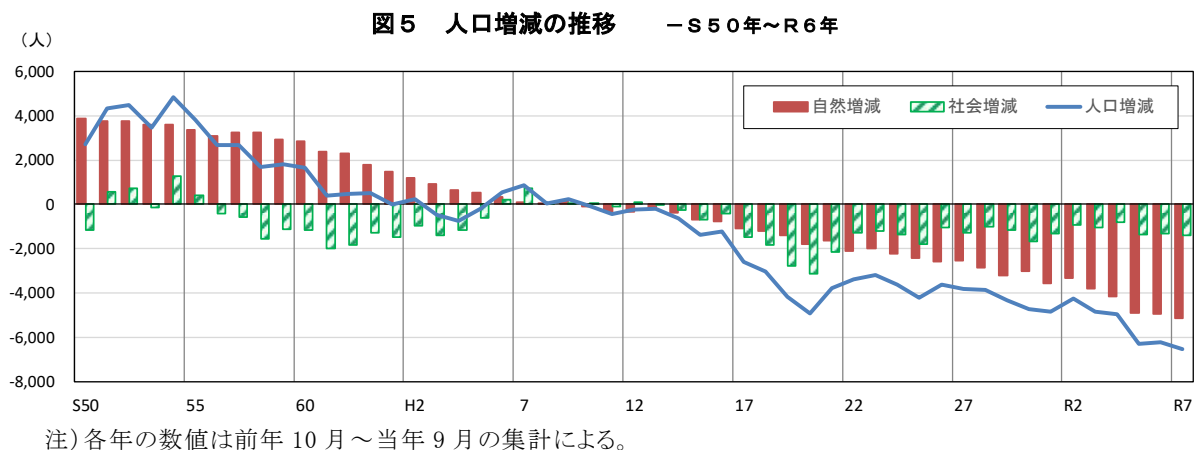
年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	60,882	11.8	236	3.7
生産年齢人口(15～64歳)	278,971	54.0	5,653	89.0
老年人口(65歳以上)	176,653	34.2	462	7.3
うち75歳以上	101,490	19.6	234	3.7

## Ⅱ 人口動態

### 1 概況

令和 7 年（令和 6 年 10 月～令和 7 年 9 月）の 1 年間の人口動態をみると、自然増減は 5,158 人の減少、社会増減は 1,392 人の減少で、合計 6,550 人の減少となり、人口増減の減少幅は前年に比べ 317 人拡大した。

（図 5、統計表第 3 表）



### 2 自然動態

#### （1）自然動態の推移

出生数は 3,006 人となり、昭和 50 年以降で過去最少を更新

死亡数は 8,164 人となり、3 年連続で 8,000 人を超過

自然増減は 5,158 人減少となり、平成 10 年以降 28 年連続の減少

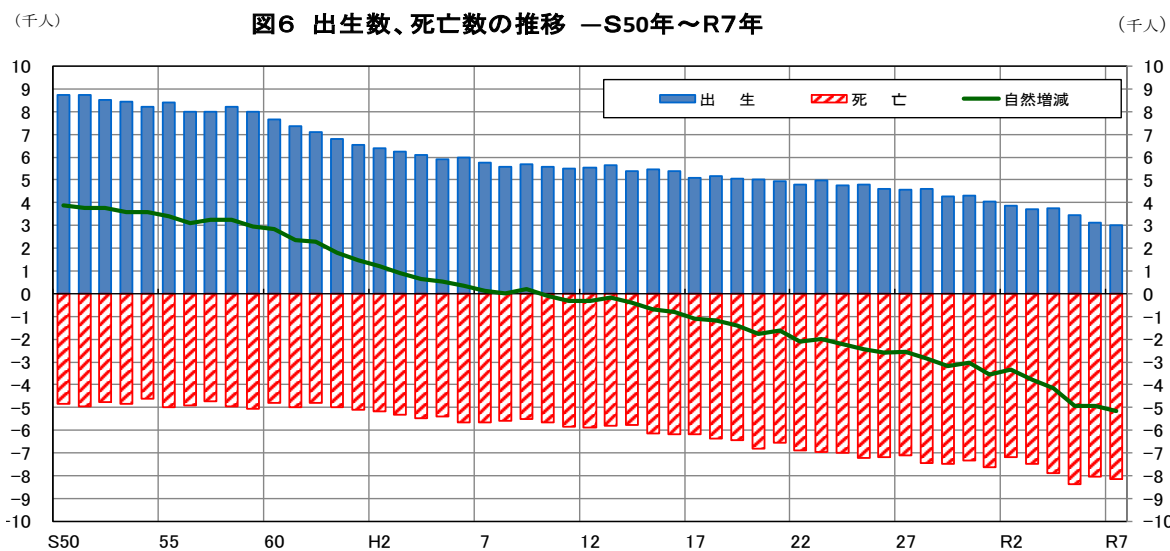
出生数は、令和 7 年は 3,006 人で前年に比べ 119 人減少し、過去最少を更新した。

昭和 50 年の 8,735 人から概ね減少傾向であり、昭和 63 年に 7,000 人を割り込み 6,000 人台となり、平成 5 年に 5,000 人台、平成 21 年に 4,000 人台、令和 2 年からは 3,000 人台となっている。

死亡数は、平成 2 年ごろまでは 5,000 人前後で推移していたが、それ以降は増加傾向となり、平成 15 年には 6,000 人台、平成 25 年に 7,000 人台、令和 5 年に 8,000 人台となり、令和 7 年は 8,164 人で、3 年連続 8,000 人を超過した。

自然増減は 5,158 人の減少となり、減少幅は前年に比べ 227 人拡大し、平成 10 年以降 28 年連続の減少となった。

（図 6、統計表第 3 表）



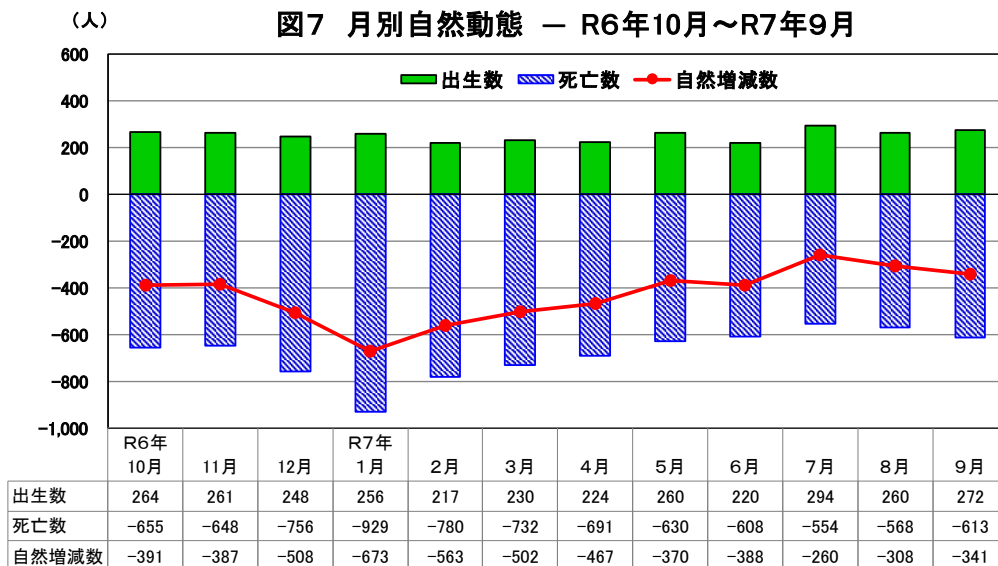
## (2) 月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い

月別にみると、出生数は令和7年7月の294人（出生総数に占める割合9.8%）が最も多く、次いで令和7年9月の272人（同9.0%）、令和6年10月の264人（同8.8%）であった。

死亡数は令和7年1月の929人（死亡総数に占める割合11.4%）が最も多く、次いで令和7年2月の780人（同9.6%）、令和6年12月の756人（同9.3%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和7年1月の673人が最も多かった。（図7、統計表第4表）



## 3 社会動態

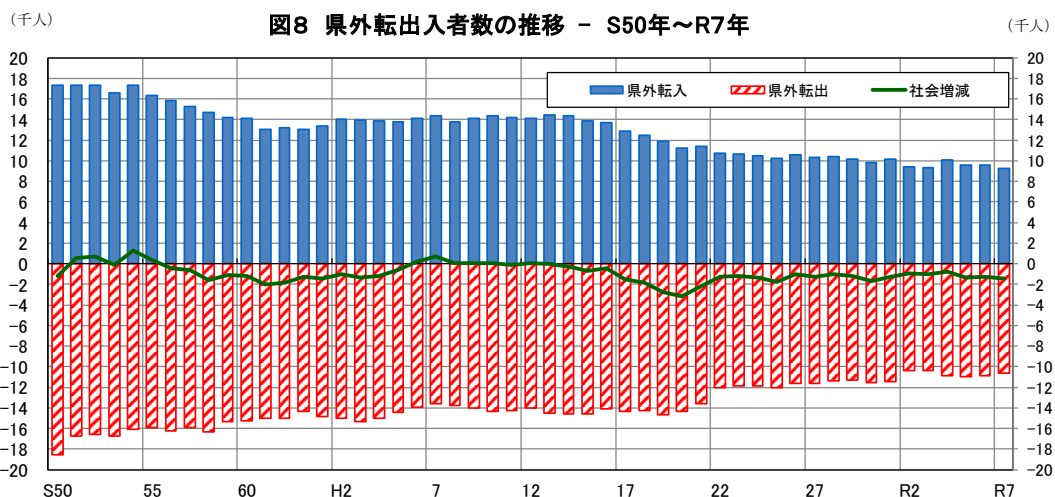
### (1) 社会動態の推移

社会増減は1,392人の減少となり、平成13年以降25年連続の減少

令和7年（令和6年10月～令和7年9月）1年間の県外転入者は9,275人、県外転出者は10,667人で、社会増減は1,392人の減少となった。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,416人で実移動者総数は25,358人であった。

前年と比べると、県外転入者が341人減少、県外転出者が251人減少し、社会増減の減少数が90人拡大した。また、県内移動者が175人増加し、実移動者総数が417人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出ともに減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降25年連続の減少となった。（図8、統計表第3表、統計表第7表）



注) 各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

## (2) 月別社会動態

年間県外移動者数は、3月及び4月の2か月間で全体の39.7%を占める

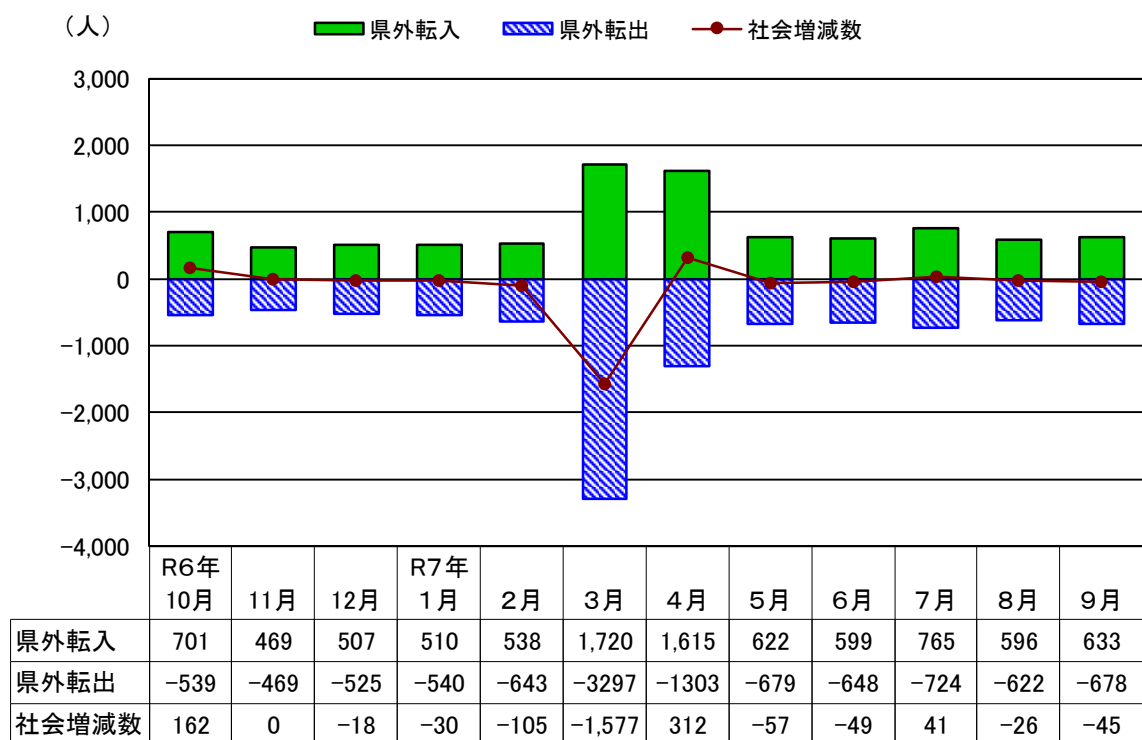
月別にみると、県外転入者は令和7年3月の1,720人（県外転入者総数に占める割合18.5%）が最も多く、次いで令和7年4月の1,615人（同17.4%）、令和7年7月の765人（同8.2%）であった。

県外転出者は令和7年3月の3,297人（県外転出者総数に占める割合30.9%）が最も多く、次いで令和7年4月の1,303人（同12.2%）、令和7年7月の724人（同6.8%）であった。

社会増減数は、令和7年4月が312人と最も多く、令和7年3月が-1,577人と最も少なかった。

年間県外移動者数をみると、3月及び4月の2か月間で7,935人となり、全体（19,942人）の39.8%を占めている。（図9、統計表第6表）

図9 月別県外転出入者数 — R6年10月～R7年9月



## (3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外転入者数は外国の1,456人、県外転出者数は大阪府の1,370人が最も多い

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の1,456人（男性659人、女性797人）が最も多く、次いで島根県の1,151人（男性642人、女性509人）、大阪府の808人（男性419人、女性389人）であった。

県外転出者は大阪府の1,370人（男性663人、女性707人）が最も多く、次いで島根県の1,093人（男性594人、女性499人）、東京都の1,012人（男性549人、女性463人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は外国の659人が最も多く、次いで島根県の642人、広島県の426人であり、県外転出者は大阪府の663人が最も多く、次いで島根県の594人、東京都の549人であった。

女性の県外転入者は外国の797人が最も多く、次いで島根県の509人、大阪府の389人であり、県外転出者は大阪府の707人が最も多く、次いで島根県の499人、東京都の463人であった。

（図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表）

図10-1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(総数)

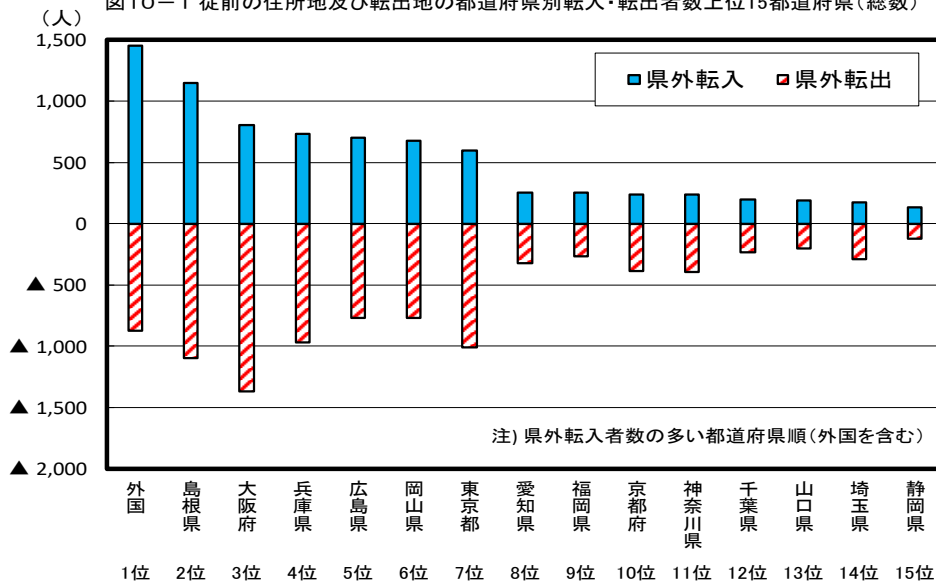


図10-2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(男)

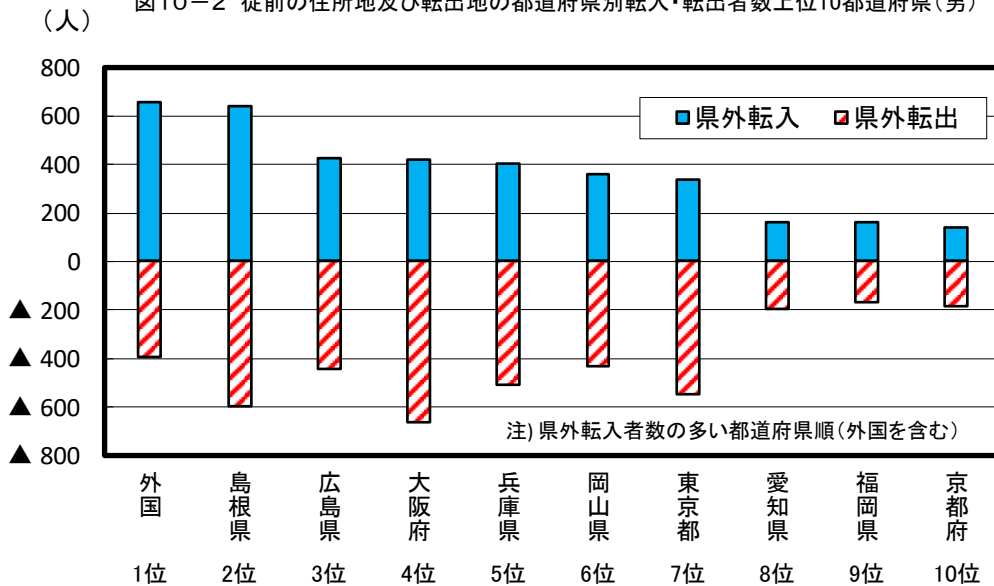
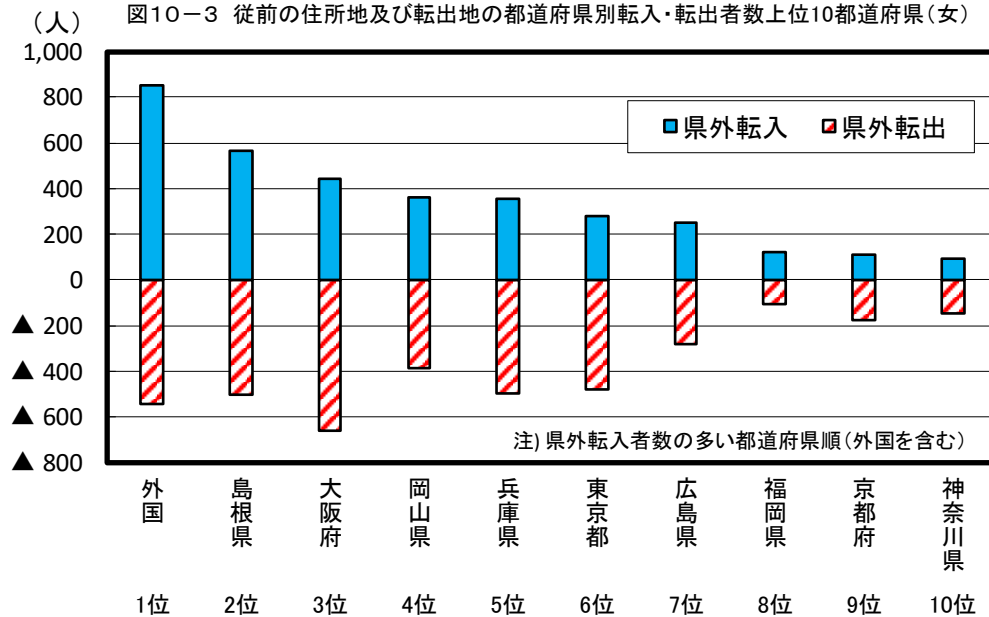


図10-3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(女)



#### (4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入者数は中国ブロックが最多で県外転出者数は近畿ブロックが最多

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの2,728人(男性1,553人、女性1,175人)が最も多く、次いで近畿ブロックの1,957人(男性1,058人、女性899人)、外国の1,456人(男性659人、女性797人)であった。

県外転出者は近畿ブロックの2,913人(男性1,448人、女性1,465人)が最も多く、次いで中国ブロックの2,837人(男性1,600人、女性1,237人)、関東ブロックの2,081人(男性1,131人、女性950人)であった。

(図11-1、図11-2、統計表第14表)

図11-1 ブロック別県外転入者数

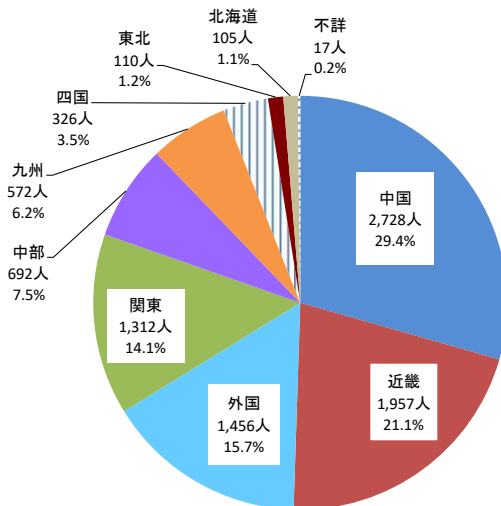
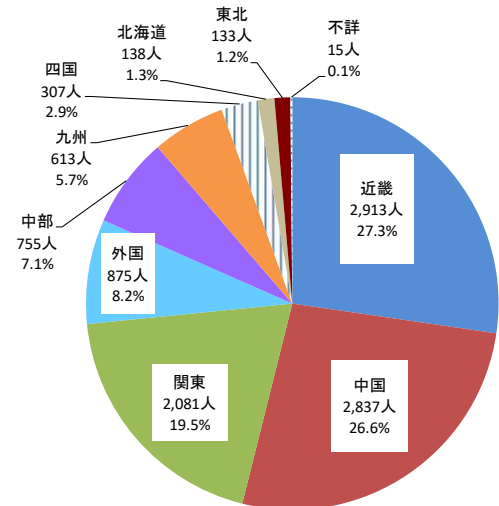


図11-2 ブロック別県外転出者数



注)全国ブロック区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

北 海 道	: 北海道
東 北	: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関 東	: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中 部	: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
近 畿	: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中 国	: 島根、岡山、広島、山口
四 国	: 徳島、香川、愛媛、高知
九 州	: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

#### (5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数

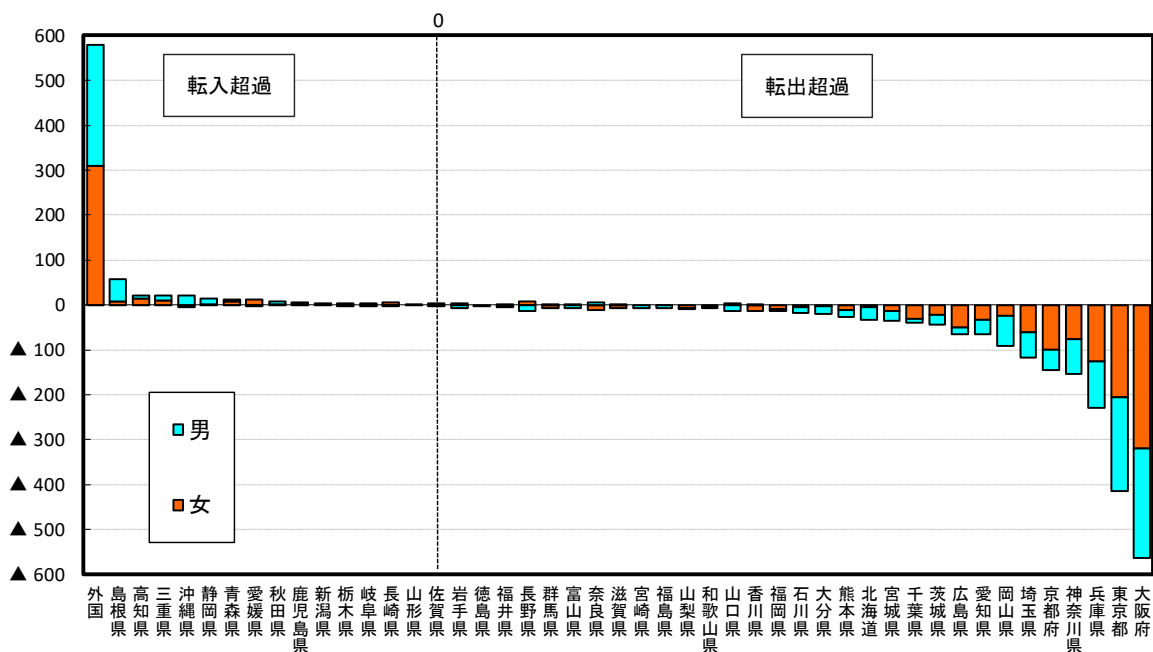
転入超過数は外国の581人、転出超過数は大阪の562人が最も多い

転入超過数は、外国の581人(男性268人、女性313人)が最も多く、次いで島根県の58人(男性48人、女性10人)、高知県の22人(男性8人、女性14人)であった。

転出超過数は、大阪の562人(男性244人、女性318人)が最も多く、次いで東京都の414人(男性209人、女性205人)、兵庫県の233人(男性104人、女性129人)であった。

(図12、統計表第14表)

図12 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数(男女別)



#### (6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態

65～69歳以上が最も増加し、20～24歳が最も減少

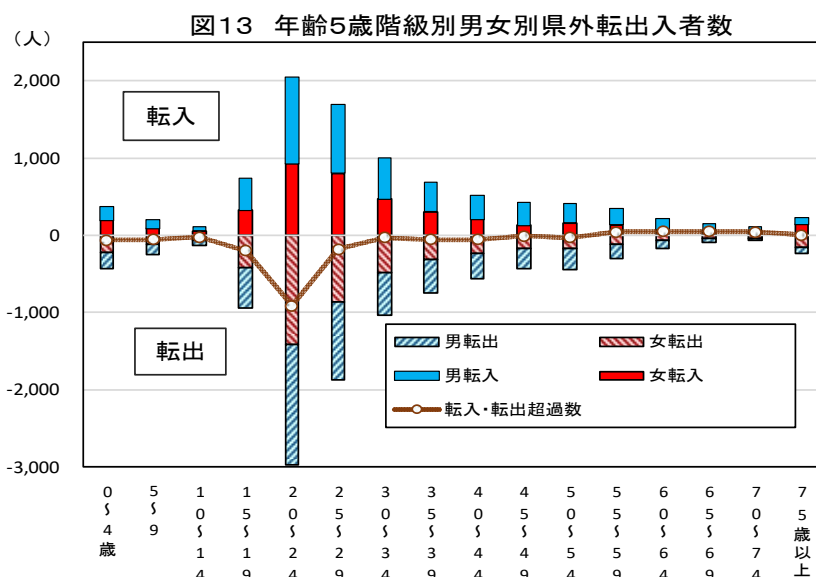
年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く(男性1,124人: 男性の県外転入者総数に占める割合が21.9%、女性930人: 女性の県外転入者総数に占める割合が22.4%)、次いで男女とも25～29歳(男性884人: 同17.2%、女性806人: 同19.4%)であった。

県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く(男性1,556人: 男性の県外転出者総数に占める割合が26.9%、女性1,413人: 女性の県外転出者総数に占める割合が28.9%)、次いで男女とも25～29歳(男性1,011人: 同17.5%、女性858人: 同17.5%)であった。

社会増減により、65～69歳が最も増加(53人: 男性27人、女性26人)、20～24歳が最も減少(915人: 男性432人、女性483人)した。

年間県外移動者総数をみると、20～34歳で10,608人となり、全体(19,942人)の53.2%を占めている。

(図13、統計表第7表、第15表)



### Ⅲ 市町村別推計人口

#### 1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の180,021人、最も少ないのは江府町の2,329人

市町村別にみると、推計人口が最も多いのは鳥取市の180,021人で、最も少ないのは、江府町の2,329人であった。

市郡別にみると、市部の推計人口は397,511人（男性190,589人、女性206,922人：県人口に占める割合75.8%）で、郡部の推計人口は127,024人（男性60,510人、女性66,514人：同24.2%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の180,021人（男性87,521人、女性92,500人：同34.3%）で、次いで米子市の143,060人（男性67,832人、女性75,228人：同27.3%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、湯梨浜町の15,442人（男性7,359人、女性8,083人：同2.9%）で、次いで琴浦町の14,793人（男性7,017人、女性7,776人：同2.8%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の2,329人（男性1,079人、女性1,250人：同0.4%）で、次いで若桜町の2,384人（男性1,133人、女性1,251人：同0.5%）であった。

（表4、統計表第8表、第8-1表、第10表）

表4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	R3年	R4年	R5年	R6年	R7年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	412,220	409,539	405,503	401,596	397,511	46,865	217,871	124,902	173,791	2.29
郡計	136,342	134,076	131,815	129,489	127,024	14,017	61,100	51,751	48,696	2.61
東部地区	222,529	220,709	218,036	215,491	212,528	24,193	115,017	69,736	91,211	2.33
中部地区	97,932	96,631	95,175	93,637	92,243	10,845	46,630	34,238	36,889	2.50
西部地区	228,101	226,275	224,107	221,957	219,764	25,844	117,324	72,679	94,387	2.33
鳥取市	187,238	186,045	184,132	182,207	180,021	20,891	99,557	56,000	78,551	2.29
米子市	146,753	146,148	145,121	144,004	143,060	17,595	79,298	42,452	63,814	2.24
倉吉市	45,828	45,227	44,480	43,828	43,275	4,888	22,131	15,815	18,125	2.39
境港市	32,401	32,119	31,770	31,557	31,155	3,491	16,885	10,635	13,301	2.34
岩美町	10,655	10,531	10,394	10,271	10,064	1,111	4,887	4,061	4,021	2.50
若桜町	2,767	2,661	2,558	2,493	2,384	143	973	1,267	1,087	2.19
智頭町	6,251	6,116	5,939	5,825	5,644	481	2,480	2,683	2,281	2.47
八頭町	15,618	15,356	15,013	14,695	14,415	1,567	7,120	5,725	5,271	2.73
三朝町	5,915	5,777	5,657	5,511	5,326	493	2,539	2,280	2,073	2.57
湯梨浜町	15,945	15,880	15,705	15,526	15,442	2,171	8,037	5,184	5,908	2.61
琴浦町	16,066	15,763	15,513	15,176	14,793	1,622	7,324	5,845	5,700	2.60
北栄町	14,178	13,984	13,820	13,596	13,407	1,671	6,599	5,114	5,083	2.64
日吉津村	3,532	3,543	3,588	3,562	3,570	558	1,966	1,017	1,317	2.71
大山町	15,110	14,774	14,498	14,243	13,965	1,483	6,595	5,887	5,094	2.74
南部町	10,208	10,066	9,989	9,844	9,632	1,012	4,776	3,840	3,511	2.74
伯耆町	10,590	10,354	10,221	10,100	10,013	1,134	4,613	4,243	3,719	2.69
日南町	4,090	3,974	3,828	3,707	3,574	238	1,328	2,006	1,607	2.22
日野町	2,822	2,790	2,667	2,557	2,466	145	940	1,381	1,100	2.24
江府町	2,595	2,507	2,425	2,383	2,329	188	923	1,218	924	2.52

※年齢3区分別人口に年齢不詳は含まない。



## 2 年齢3区分別人口

### (1) 年少人口

前年と比べると、年少人口は17市町で減少

年少人口割合は14市町で低下

年少人口は鳥取市の20,891人が最も多く、次いで米子市の17,595人であった。

前年と比べると、日吉津村、江府町以外の17市町で減少した。

年少人口割合は日吉津村の15.8%が最も高く、次いで湯梨浜町の14.1%であった。

前年と比べると、日吉津村、江府町で上昇し、若桜町、湯梨浜町及び日南町で同水準、鳥取市など14市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

### (2) 生産年齢人口

前年と比べると、生産年齢人口は19市町村すべてで減少

生産年齢人口割合は16市町村で低下

生産年齢人口は鳥取市の99,557人が最も多く、次いで米子市の79,298人であった。

前年と比べると、19市町村すべてで減少した。

生産年齢人口割合は米子市の56.9%が最も高く、次いで鳥取市の56.4%であった。

前年と比べると、米子市、琴浦町及び伯耆町で同水準、鳥取市など16市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

### (3) 老年人口

前年と比べると、老年人口は3市町で増加、岩美町で増減なし、その他の市町村で減少

老年人口割合は日吉津村以外の18市町で上昇

老年人口は鳥取市の56,000人が最も多く、次いで米子市の42,452人であった。

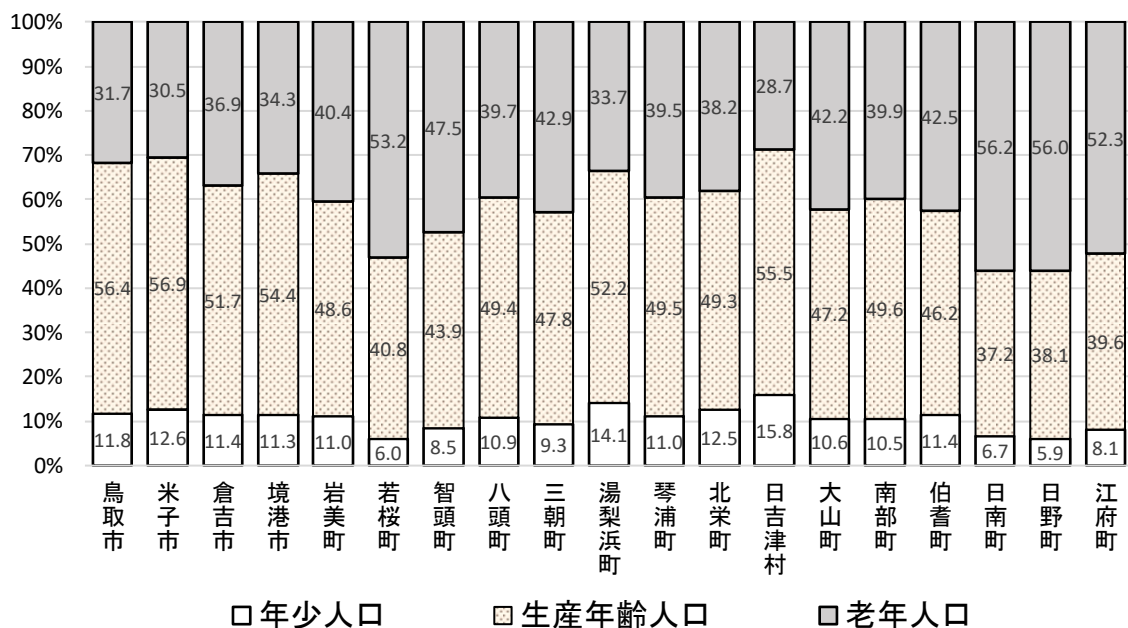
前年と比べると、鳥取市で8人、湯梨浜町で23人、日野町で1人増加、岩美町で増減なし、その他の市町村で減少した。

老年人口割合は日南町の56.2%が最も高く、次いで日野町の56.0%であった。

前年と比べると、鳥取市など18市町で上昇し、日吉津村で0.3ポイント低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

図14 市町村別年齢3区分別人口割合



#### Ⅳ 市町村別人口動態

##### 1 概況

人口増減は、日吉津村以外の 18 市町で減少

令和 7 年（令和 6 年 10 月～令和 7 年 9 月）1 年間の市町村別の人口増減をみると、日吉津村で 8 人増加、その他の市町で減少し、そのうち最も減少したのは鳥取市の 2,186 人（自然減少 1,449 人、社会減少 737 人）、次いで米子市の 944 人（自然減少 937 人、社会減少 7 人）であった。

また、増減率をみると、日吉津村以外で減少し、そのうち最も減少したのは若桜町の 4.37%、次いで日南町の 3.59%、日野町の 3.56%であった。（表 5、統計表第 8 表）

表 5 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,006	8,164	-5,158	14,691	16,083	-1,392	-6,550
鳥取市	1,045	2,494	-1,449	4,128	4,865	-737	-2,186
米子市	989	1,926	-937	4,680	4,687	-7	-944
倉吉市	213	688	-475	1,285	1,363	-78	-553
境港市	169	561	-392	1,194	1,204	-10	-402
岩美町	51	169	-118	256	345	-89	-207
若桜町	7	80	-73	50	86	-36	-109
智頭町	12	154	-142	133	172	-39	-181
八頭町	52	294	-242	348	386	-38	-280
三朝町	12	129	-117	101	169	-68	-185
湯梨浜町	113	247	-134	487	437	50	-84
琴浦町	57	282	-225	389	547	-158	-383
北栄町	93	238	-145	303	347	-44	-189
日吉津村	35	40	-5	172	159	13	8
大山町	58	308	-250	384	412	-28	-278
南部町	42	162	-120	236	328	-92	-212
伯耆町	39	169	-130	339	296	43	-87
日南町	7	116	-109	83	107	-24	-133
日野町	5	53	-48	68	111	-43	-91
江府町	7	54	-47	55	62	-7	-54

## 2 自然動態

### (1) 市町村別自然動態

自然増減は、19市町村すべてで減少

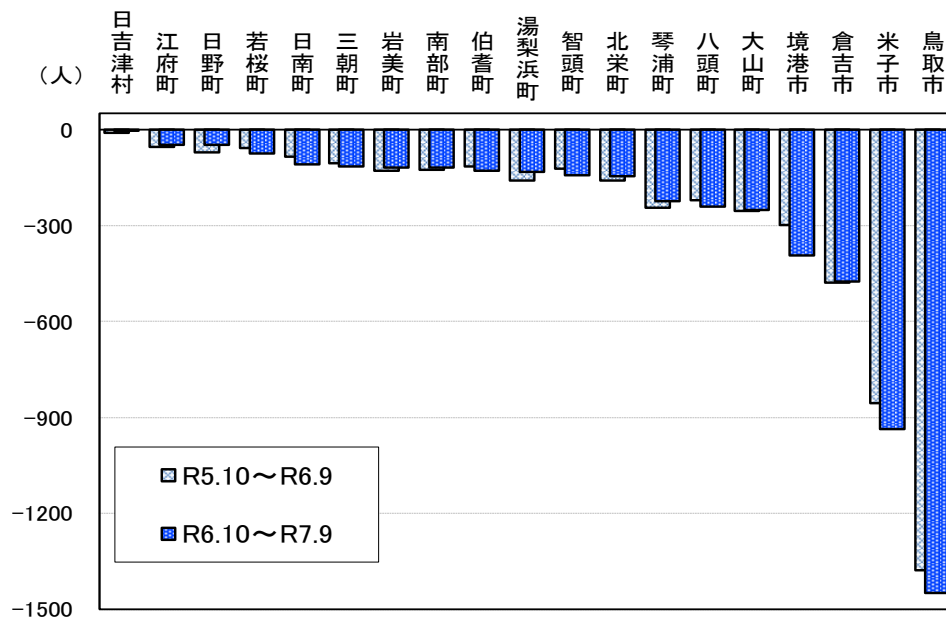
自然増減を市町村別にみると、19市町村すべてで減少した。

最も減少したのは鳥取市の1,449人（出生数1,045人、死亡数2,494人）、次いで米子市の937人（出生数989人、死亡数1,926人）であった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、19市町村すべてで減少し、そのうち最も減少したのは日南町の29.40‰、次いで若桜町の29.28‰であった。

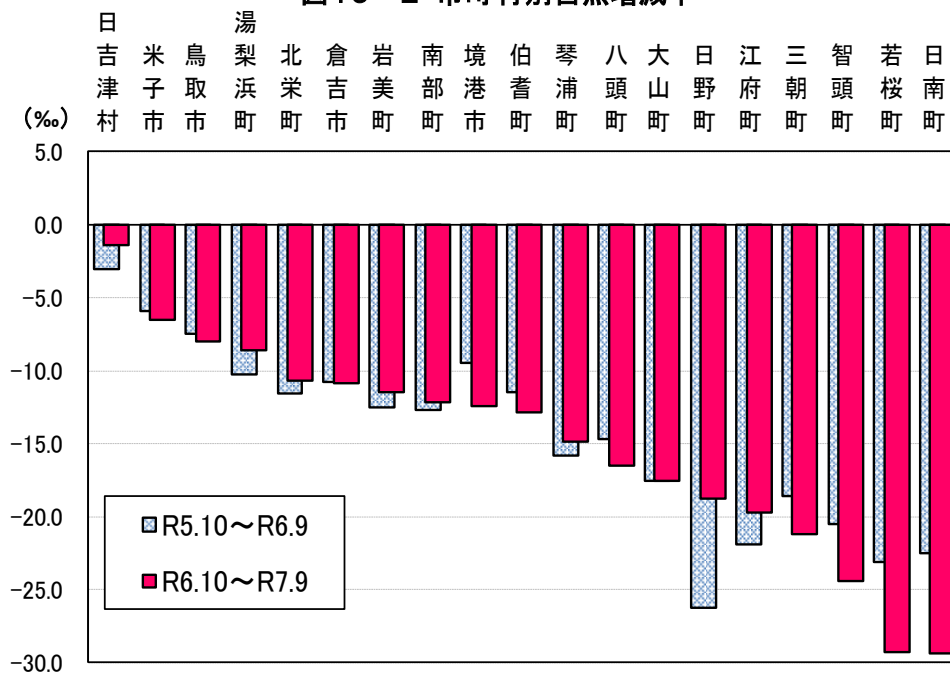
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

## (2) 男女別自然動態

### 男性・女性ともに、出生数・死亡数とも鳥取市が最多

自然動態を市町村別男女別でみると、男性の出生数は鳥取市の 557 人が最も多く、次いで米子市の 519 人、倉吉市の 119 人、境港市の 90 人であった。死亡数は鳥取市の 1,204 人が最も多く、次いで米子市の 968 人、倉吉市の 332 人、境港市の 279 人であった。

女性の出生数は鳥取市の 488 人が最も多く、次いで米子市の 470 人、倉吉市の 94 人、境港市の 79 人であった。死亡数は鳥取市の 1,290 人が最も多く、次いで米子市の 958 人、倉吉市の 356 人、境港市の 282 人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の 2 人、女性では智頭町、日野町、江府町の 3 人、死亡数は、日吉津村の男性 21 人、女性 19 人であった。

(表6、統計表第11表)

表6 市町村別男女別自然動態

(単位:人)

市 町 村	実 数 (人)								
	自 然 増 減			出 生			死 亡		
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女
県 計	-5,158	-2,407	-2,751	3,006	1,587	1,419	8,164	3,994	4,170
市 計	-3,253	-1,498	-1,755	2,416	1,285	1,131	5,669	2,783	2,886
郡 計	-1,905	-909	-996	590	302	288	2,495	1,211	1,284
東部地区	-2,024	-910	-1,114	1,167	619	548	3,191	1,529	1,662
中部地区	-1,096	-494	-602	488	267	221	1,584	761	823
西部地区	-2,038	-1,003	-1,035	1,351	701	650	3,389	1,704	1,685
鳥 取 市	-1,449	-647	-802	1,045	557	488	2,494	1,204	1,290
米 子 市	-937	-449	-488	989	519	470	1,926	968	958
倉 吉 市	-475	-213	-262	213	119	94	688	332	356
境 港 市	-392	-189	-203	169	90	79	561	279	282
岩 美 郡	-118	-49	-69	51	24	27	169	73	96
岩 美 町	-118	-49	-69	51	24	27	169	73	96
八 頭 郡	-457	-214	-243	71	38	33	528	252	276
若 桜 町	-73	-38	-35	7	3	4	80	41	39
智 頭 町	-142	-62	-80	12	9	3	154	71	83
八 頭 町	-242	-114	-128	52	26	26	294	140	154
東 伯 郡	-621	-281	-340	275	148	127	896	429	467
三 朝 町	-117	-51	-66	12	7	5	129	58	71
湯 梨 浜 町	-134	-56	-78	113	58	55	247	114	133
琴 浦 町	-225	-107	-118	57	29	28	282	136	146
北 栄 町	-145	-67	-78	93	54	39	238	121	117
西 伯 郡	-505	-269	-236	174	83	91	679	352	327
日吉津村	-5	-4	-1	35	17	18	40	21	19
大 山 町	-250	-133	-117	58	28	30	308	161	147
南 部 町	-120	-64	-56	42	20	22	162	84	78
伯 耆 町	-130	-68	-62	39	18	21	169	86	83
日 野 郡	-204	-96	-108	19	9	10	223	105	118
日 南 町	-109	-55	-54	7	3	4	116	58	58
日 野 町	-48	-20	-28	5	2	3	53	22	31
江 府 町	-47	-21	-26	7	4	3	54	25	29

### 3 社会動態

#### (1) 市町村別社会動態

##### 社会増減は3町村で増加し、16市町で減少

社会増減を市町村別にみると、湯梨浜町、伯耆町、日吉津村の3町村で増加し、16市町で減少した。

最も増加したのは湯梨浜町の50人（男性5人、女性45人）、次いで伯耆町の43人（男性33人、女性10人）であった。最も減少したのは鳥取市の737人（男性309人、女性428人）、次いで琴浦町の158人（男性58人、女性100人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは伯耆町の4.26‰で、次いで日吉津村3.65‰、湯梨浜町の3.22‰となり、その他の市町は減少した。最も減少したのは日野町の16.82‰、次いで若桜町の14.44‰であった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表、第15表）

図16-1 市町村別社会増減数

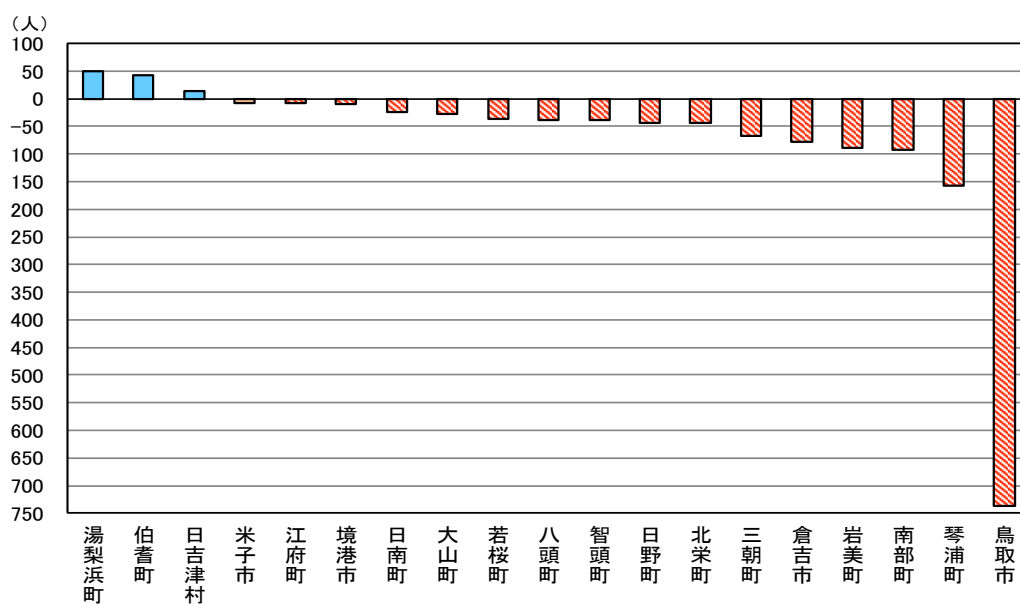


図16-2 市町村別社会増減率

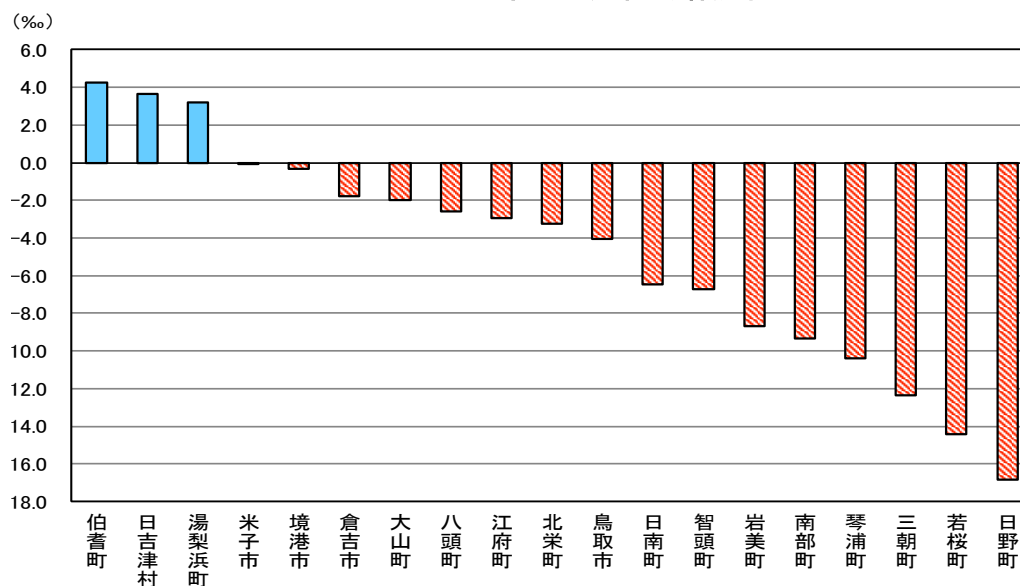


表 7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,275	10,667	-1,392	5,416	5,416	0	-1,392
東部地区	3,384	4,249	-865	1,531	1,605	-74	-939
中部地区	1,217	1,441	-224	1,348	1,422	-74	-298
西部地区	4,674	4,977	-303	2,537	2,389	148	-155
鳥取市	2,999	3,765	-766	1,129	1,100	29	-737
米子市	3,197	3,447	-250	1,483	1,240	243	-7
倉吉市	652	731	-79	633	632	1	-78
境港市	886	839	47	308	365	-57	-10
岩美町	152	199	-47	104	146	-42	-89
若桜町	36	31	5	14	55	-41	-36
智頭町	72	100	-28	61	72	-11	-39
八頭町	125	154	-29	223	232	-9	-38
三朝町	55	83	-28	46	86	-40	-68
湯梨浜町	161	205	-44	326	232	94	50
琴浦町	238	256	-18	151	291	-140	-158
北栄町	111	166	-55	192	181	11	-44
日吉津村	50	62	-12	122	97	25	13
大山町	193	219	-26	191	193	-2	-28
南部町	104	153	-49	132	175	-43	-92
伯耆町	149	138	11	190	158	32	43
日南町	36	50	-14	47	57	-10	-24
日野町	34	46	-12	34	65	-31	-43
江府町	25	23	2	30	39	-9	-7

注 1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（－）の場合は、転出超過を示す。

注 2) 地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

## (2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への 391 人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への 391 人（男性 200 人、女性 191 人）が最も多く、次いで米子市から鳥取市への 319 人（男性 183 人、女性 136 人）であった。

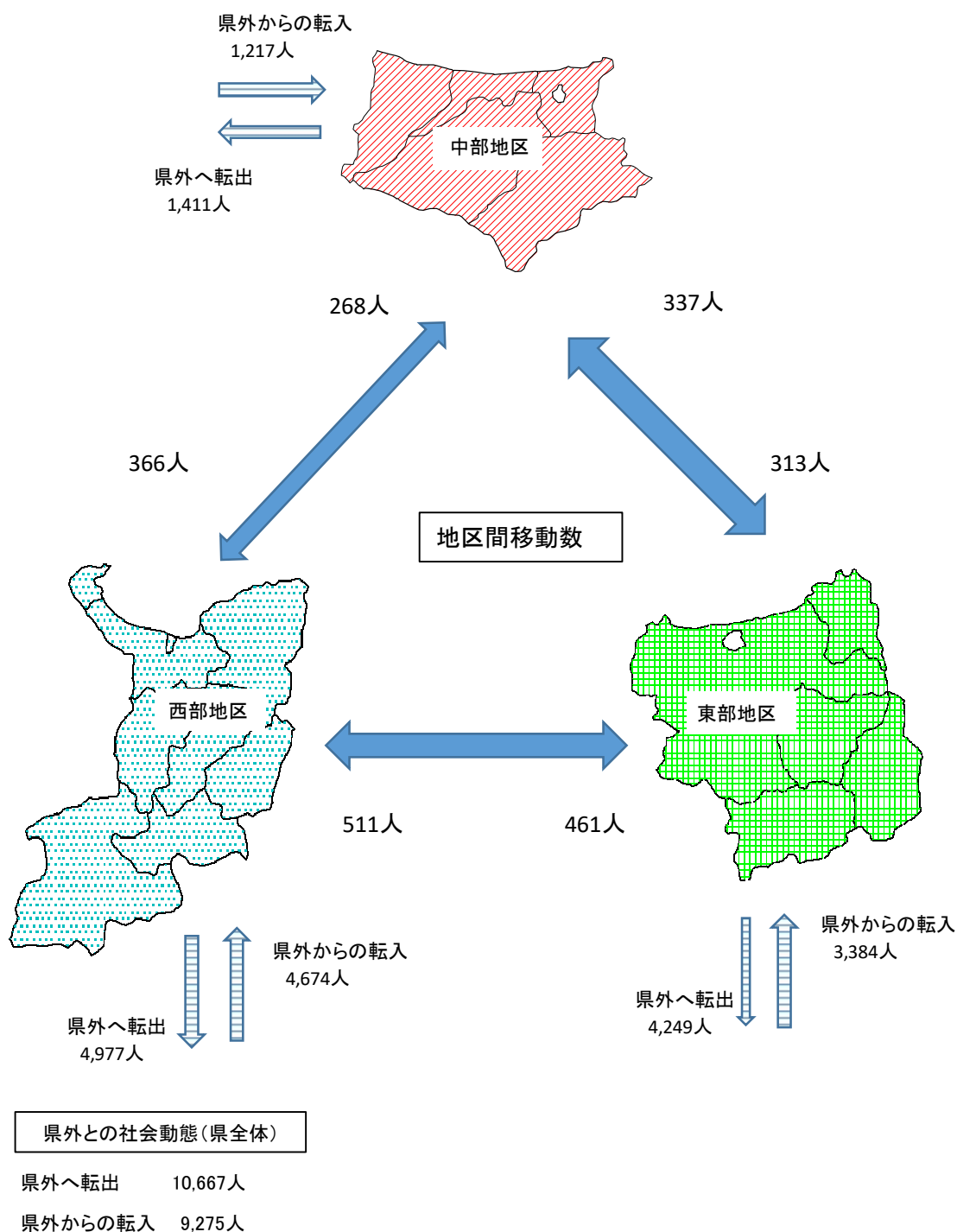
県内移動での転入超過は、米子市の 243 人（男性 79 人、女性 164 人）が最も多く、次いで湯梨浜町の 94 人（男性 42 人、女性 52 人）であった。

転出超過は、琴浦町の 140 人（男性 62 人、女性 78 人）が最も多く、次いで境港市の 57 人（男性 31 人、女性 26 人）であった。

また、県内移動を地区別にみると、西部から東部への 511 人（男性 266 人、女性 245 人）が最も多く、次いで東部から西部への 461 人（男性 277 人、女性 184 人）、中部から西部への 366 人（男性 187 人、女性 179 人）であった。

(図 17、統計表第 13 表、第 15 表)

図17 地区別社会動態(R6年10月～R7年9月)



注) 地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

### (3) 県外転入・県外転出

**県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への661人**  
**県外転出者で最も多いのは、鳥取市から大阪府への535人**

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への661人(男性371人、女性290人)で、次いで外国から鳥取市への495人(男性245人、女性250人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、鳥取市から大阪府への535人(男性264人、女性271人)、次いで米子市から島根県への517人(男性271人、女性246人)であった。

転入・転出超過数をみると、転入超過は、境港市の47人(男性-28人、女性75人)が最も多く、次いで伯耆町の11人(男性13人、女性-2人)であった。

転出超過は、鳥取市の 776 人（男性 345 人、女性 421 人）が最も多く、次いで米子市の 250 人（男性 82 人、女性 168 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国から 592 人（男性 291 人、女性 301 人）が最も多く、次いで兵庫から 424 人（男性 234 人、女性 190 人）、中部では外国から 249 人（男性 100 人、女性 149 人）が最も多く、次いで大阪府から 168 人（男性 77 人、女性 91 人）、西部では島根県から 872 人（男性 477 人、女性 395 人）が最も多く、次いで外国から 615 人（男性 268 人、女性 347 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 614 人（男性 303 人、女性 311 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 499 人（男性 266 人、女性 233 人）、中部では大阪府へ 216 人（男性 102 人、女性 114 人）が最も多く、次いで外国へ 144 人（男性 56 人、女性 88 人）、西部では島根県へ 749 人（男性 396 人、女性 353 人）が最も多く、次いで大阪府へ 540 人（男性 258 人、女性 282 人）であった。

（表 8、統計表第 14 表）

表 8 都道府県別(外国を含む)県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
外国	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他
	1,456	495	339	110	512	875	346	150	81	298
島根県	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
	1,151	661	181	146	163	1,093	517	222	141	213
大阪府	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	808	268	216	84	240	1,370	535	362	111	362
兵庫県	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	734	366	158	51	159	967	435	259	74	199
広島県	総数	米子市	鳥取市	倉吉市・境港市(同順位)	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
	709	309	217	48	87	771	316	277	52	126
岡山県	総数	米子市	鳥取市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他
	679	257	239	76	107	771	294	275	65	137
東京都	総数	鳥取市	米子市	倉吉市	その他	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他
	598	219	201	48	130	1,012	369	328	71	244

#### (4) 4 市における年齢 5 歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも 20～24 歳が最も多い

##### 【鳥取市】

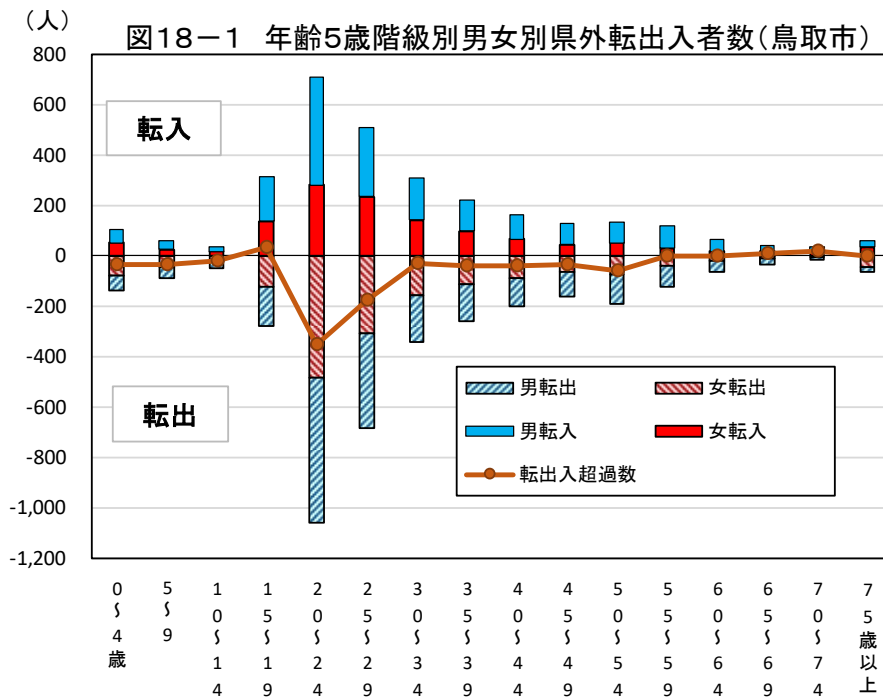
県外転入者は、20～24 歳の 708 人（男性 426 人、女性 282 人：県全体の県外転入者総数に占める割合 7.6%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 508 人（男性 274 人、女性 234 人：同 5.5%）であった。

県外転出者は、20～24 歳の 1,061 人（男性 578 人、女性 483 人：県全体の県外転出者総数に占める割合 9.9%）が最も多く、次いで 25～29 歳の 683 人（男性 376 人、女性 307 人：同 6.4%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、15 歳～19 歳の 33 人（男性 17 人、女性 16 人）が最も多く、次いで、70～74 歳の 18 人（男性 11 人、女性 7 人）であった。転出超過数は、20～24 歳の 353 人（男性 152 人、女性 201 人）が最も多く、次いで 25～29 歳の 175 人（男性 102 人、女性 73 人）であった。

（図 18-1、統計表第 15 表）





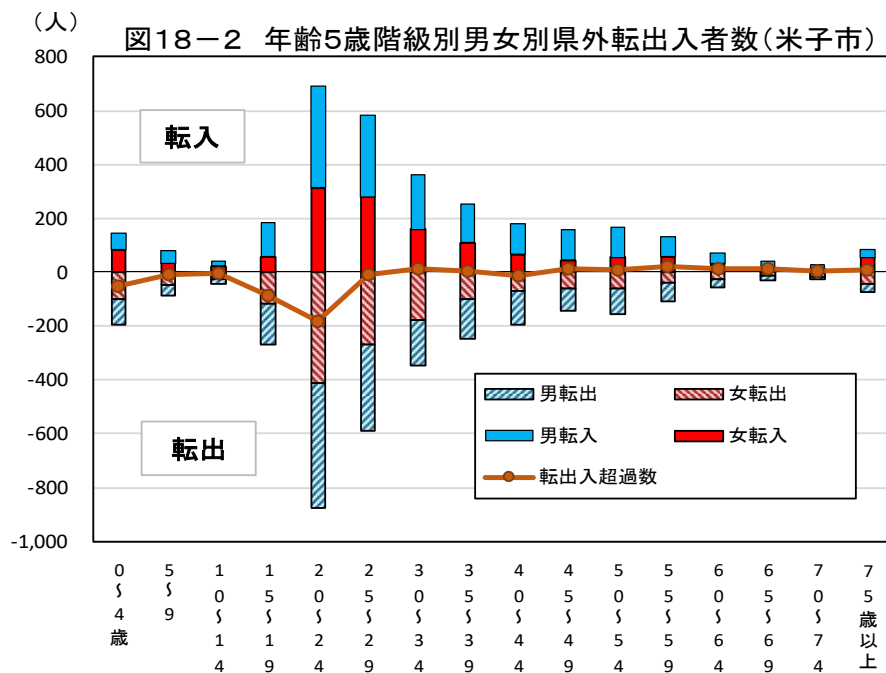
### 【米子市】

県外転入者は、20～24歳の693人（男性381人、女性312人：同7.5%）が最も多く、次いで25～29歳の581人（男性300人、女性281人：同6.3%）であった。

県外転出者は、20～24歳の876人（男性463人、女性413人：同8.2%）が最も多く、次いで25～29歳の590人（男性322人、女性268人：同5.5%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、55歳～59歳以上の23人（男性4人、女性19人）が最も多く、次いで45～49歳以上の15人（男性29人、女性14人）であった。転出超過数は、20～24歳の183人（男性82人、女性101人）が最も多く、次いで15～19歳の86人（男性25人、女性61人）であった。

（図18-2、統計表第15表）



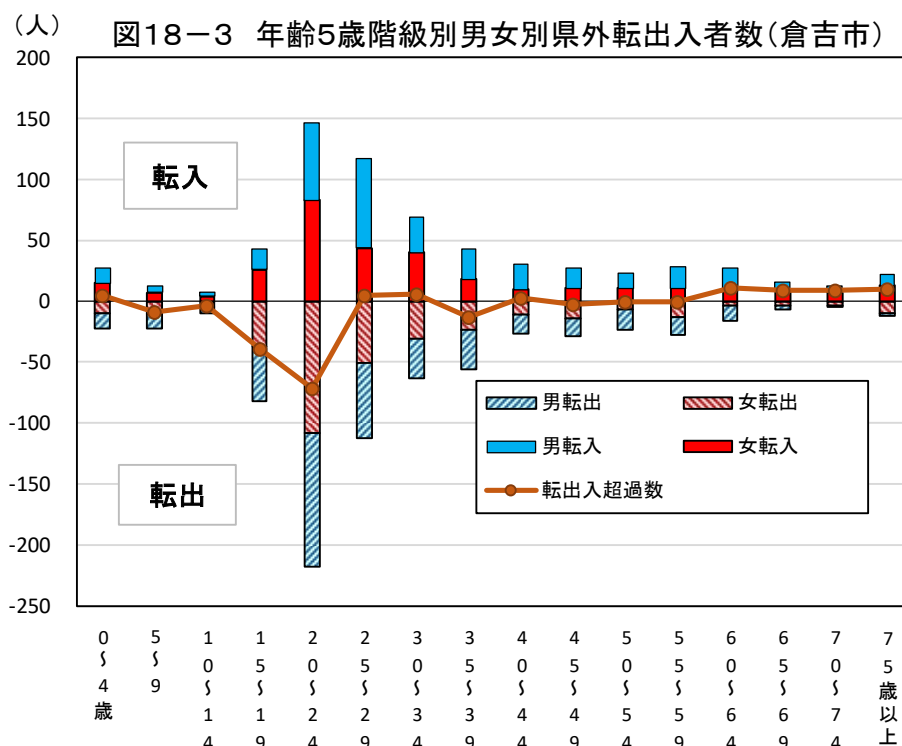
## 【倉吉市】

県外転入者は、20～24歳の147人（男性64人、女性83人：同1.6%）が最も多く、次いで25～29歳の117人（男性73人、女性44人：同1.3%）であった。

県外転出者は、20～24歳の218人（男性110人、女性108人：同2.0%）が最も多く、次いで25～29歳の112人（男性61人、女性51人：同1.0%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、60～64歳の11人（男性6人、女性5人）が最も多く、次いで75歳以上の10人（男性7人、女性3人）であった。転出超過数は、20～24歳の71人（男性46人、女性25人）が最も多く、次いで15～19歳の39人（男性28人、女性11人）であった。

（図18－3、統計表第15表）



## 【境港市】

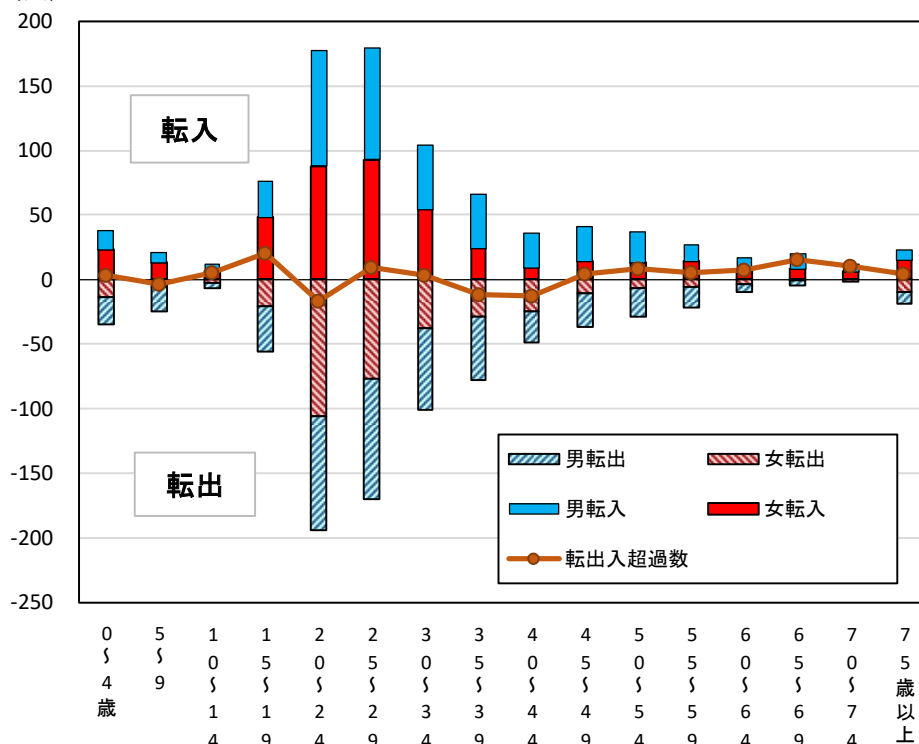
県外転入者は、25～29歳の179人（男性86人、女性93人：同1.9%）が最も多く、次いで20～24歳の177人（男性89人、女性88人：同1.9%）であった。

県外転出者は、20～24歳の194人（男性88人、女性106人：同1.8%）が最も多く、次いで25～29歳の170人（男性93人、女性77人：同1.6%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、15～19歳の20人（男性7人、女性13人）が最も多く、次いで65～69歳の15人（男性8人、女性7人）であった。転出超過数は、20～24歳の17人（男性1人、女性16人）が最も多く、次いで40～44歳の13人（男性3人、女性10人）であった。

（図18－4、統計表第15表）

(人) 図18-4 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(境港市)



## <参考> 外国人の人口動態

### 1 自然動態

- ・出生数は15人（男性6人、女性9人）
- ・死亡数は25人（男性11人、女性14人）（表9）

表9 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	15	6	9	25	11	14
10月	1	0	1	1	0	1
11月	2	1	1	2	1	1
12月	2	1	1	2	1	1
1月	2	1	1	2	1	1
2月	2	1	1	3	2	1
3月	0	0	0	5	3	2
4月	2	1	1	3	1	2
5月	1	0	1	3	1	2
6月	0	0	0	2	0	2
7月	0	0	0	0	0	0
8月	2	1	1	2	1	1
9月	1	0	1	0	0	0

### 2 社会動態

#### (1) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,904人（男性918人、女性986人）で、県外転出者数は1,345人（男性630人、女性715人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の610人（男性337人、女性273人）で次いで米子市の462人（男性210人、女性252人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の463人（男性232人、女性231人）で、次いで米子市の288人（男性127人、女性161人）
- ・転入超過数は、米子市の174人（男性83人、女性91人）が最も多く、転出超過数は、智頭町の5人（男性-4人、女性9人）が最も多い。

#### (2) 県内移動

- ・県内移動者数は106人（男性42人、女性64人）
- ・転入が最も多いのは倉吉市の20人（男性5人、女性15人）
- ・転出が最も多いのは米子市と琴浦町の20人（米子市：男性13人、女性7人 琴浦町：男性9人、女性11人）
- ・転入超過数は、湯梨浜町の8人（男性8人、女性0人）が最も多く、転出超過数は、琴浦町の15人（男6人、女性9人）が最も多い。（表10）

表10 市町村別社会動態(外国人)

(単位:人)

	県外														県内														社会増減数
	転入者数						転出者数						転入超過数	転入者数						転出者数						転入超過数			
	総数			女			総数			女				総数			女			総数			女						
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女							
県計	1,904	918	986	1,345	630	715	559	106	42	64	106	42	64	0	559														
東部地区	705	380	325	559	270	289	146	28	8	20	25	6	19	3	149														
中部地区	336	151	185	229	107	122	107	42	17	25	42	16	26	0	107														
西部地区	863	387	476	557	253	304	306	36	17	19	39	20	19	-3	303														
鳥取市	610	337	273	463	232	231	147	17	4	13	16	3	13	1	148														
米子市	462	210	252	288	127	161	174	9	5	4	20	13	7	-11	163														
倉吉市	134	58	76	70	33	37	64	20	5	15	15	7	8	5	69														
境港市	210	80	130	127	46	81	83	6	1	5	6	4	2	0	83														
岩美町	51	25	26	45	20	25	6	4	3	1	5	0	5	-1	5														
若桜町	12	0	12	15	4	11	-3	3	0	3	2	2	0	1	-2														
智頭町	16	10	6	21	6	15	-5	2	0	2	0	0	0	2	-3														
八頭町	16	8	8	15	8	7	1	2	1	1	2	1	1	0	1														
三朝町	25	16	9	27	20	7	-2	0	0	0	0	0	0	0	-2														
湯梨浜町	24	10	14	20	9	11	4	12	8	4	4	0	4	8	12														
琴浦町	117	55	62	94	39	55	23	5	3	2	20	9	11	-15	8														
北栄町	36	12	24	18	6	12	18	5	1	4	3	0	3	2	20														
日吉津村	10	6	4	5	3	2	5	2	2	0	0	0	0	2	7														
大山町	83	39	44	71	40	31	12	5	5	0	2	0	2	3	15														
南部町	33	20	13	33	16	17	0	1	0	1	2	2	0	-1	-1														
伯耆町	40	18	22	16	8	8	24	12	4	8	1	1	0	11	35														
日南町	10	10	0	8	8	0	2	1	0	1	0	0	0	1	3														
日野町	10	4	6	7	5	2	3	0	0	0	8	0	8	-8	-5														
江府町	5	0	5	2	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3														

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（-）の場合は、転出超過を示す。

注2) 地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。